

は　じ　め　に

健康福祉センターは、感染症発生時や地震などの災害時に地域の健康危機管理の拠点として活動する役割を担っております。平成 21 年度の新型インフルエンザ発生時には疫学調査、患者搬送、発熱相談、医療体制の構築、情報提供等の役割を果たしました。

平成 22 年度は、その新型インフルエンザ発生時の検疫所などでの水際作戦や発熱外来等の医療体制、広報体制、ワクチン接種などについて検証が行われ、今後、新たな危機に備えて行動計画等の見直しが行われるものと思われます。

今、日本は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災とそれに続発した福島第一原子力発電所の事故で、未曾有の危機に直面しております。当健康福祉センター管内では、地震・津波による大きな被害はありませんでしたが、被災者の避難や原発事故からの避難者がありました。

今年の大震災や原発事故を考えてみる中で、「想定外」という言葉が何度も聞かれました。起こりうる事態を想定していなければ対策は何も考えられません。あらゆる事態を想定したうえで、考えられる限りの対応策を検討しておくことが、危機管理の基本だということがわかりました。また、平時からの「危機への備え」が極めて大切だということが、改めて確認されました。

健康福祉センターの業務の中でも、災害発生時など有事の際の医療提供や避難民の健康管理、水や食の安全の確保といった業務が目されがちですが、平時から取り組んでおくべき「危機への備え」として連絡体制やマニュアル等の整備、難病患者の支援体制の構築、給食施設の防災体制の推進などがございます。印旛健康福祉センターは地域の健康危機管理の拠点として、このような平時からの「危機へのそなえ」に力を入れて取り組んでまいります。

ここに平成 22 年度の事業年報をお届けいたします。今後とも事業遂行にご指導、ご鞭撻をいただければ幸いです。

平成 23 年　9 月　千葉県印旛健康福祉センター長　中村恒穂